

中間テスト終了 必ず復習を テストの結果を次の模試に生かそう

中間テストが終わりました。中間テストで明らかになった弱点は放置せず、短時間でも構わないので、必ず復習をしましょう。ここで復習することによって基礎・基本が確実に強化されるはずです。テスト勉強→試験→復習という理想的なサイクルを大切にしてください。

2年間の集大成としての県総体、 最高学年としての体育祭に向けて全力を尽くそう！！

いよいよ県総体が近づいてきました。さらに6月8日には体育祭があります。みなさんの今までの取り組みを発揮する場であり、クラスや学校全体がまとまる貴重な機会です。それぞれが気概を持って事に臨み、最高の思い出を作ってください。

6月11・12日 進研マーク模試を行います。

これからは、県総体や体育祭など、行事が目白押しです。3年生にとって最も忙しい時期ですが、みなさんが一番輝ける時期でもあります。1日1日を大切にしていきましょう。今日という日は二度と繰り返されることはありません。

学習上の目安となるのは6月の進研マーク模試です。来年1月14日15日の大学入試センター試験への第一歩はこのマーク模試から始まるといっても過言ではありません。

以下に、今回のマーク模試の目的を説明します。

1. マークシートの記入方法・ルールを理解し、ミスを防ごう！

マーク式の試験では、独自の解答形式に慣れないとどんな学力があっても好成績は残せない。センター試験に向け、今回の模試を通してマーク式の試験ならではの解答法を身につけよう。

2. 正確に自己採点できるようになろう。

センター試験後の出願に際して目安となる自分の得点は、自己採点でしかわからない。出願校決定の基準を正確につかむために、本番同様の形式で行われる今回の模試で、自己採点の練習をしておこう。

3. センター試験に向けて、弱点を発見しよう！

センター試験は、全受験教科の総合力が問われる試験。また、それぞれの科目では分野に偏りなく出題されるのが特徴。今回の受験結果から、本番に向けて補強しておくべき弱点教科・分野を洗い出そう。

*今年度は、校外模試成績の上位者（全国偏差値55.0以上を予定）について、その結果（氏名のみ）を校内掲示します。1人でも多くの者が掲載されるよう期待しています。

これからが本番。進路決定までのスケジュール

これからがいよいよ卒業後の進路を決める大切な時期になります。入試に向けた学習や就職試験に向けた準備など、やることは盛りだくさん。これからはめざす進路によってスケジュールがそれぞれ変わってきます。「まだ大丈夫」と思って手遅れにならないよう確認しておきましょう。

		春休み	3年生								
			3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
進学をめざす あなた	大学・短大 一般入試			夏休みまでの基礎固めは重要！ これまでの学習内容をしっかり定着。			募集要項 発表			受験勉強本格化。 志望校の過去問題にもチャレンジしていきよう！	
	大学・短大 推薦入試	どの上級学校 で何を学びたいのか・どの入 試方式でチャレンジするかを仮 決定しよう！		推薦入試では出願条件の「評定平均」も 重要。日々の学習・定期試験学習に しっかり取り組もう！			募集要項 発表	夏休みを利用 してオープン キャンパス に積極的に 参加しよう！	校内選考	出願	推薦入試 本格化
	大学・短大 AO入試			AO入試は、学校・学部・学科によってスタート時期もいろいろ。 早いところでは夏休み前から選考開始の場合も。希望する上 級学校の募集要項を早めに確認！							
就職をめざす あなた	専門学校			入学案内を入手しておこう。カリキュ ラム内容・卒業後の進路や入試情報、 学費などをチェック！			1日体験入学などを利用し て、いろいろな学校の特色 を見つけよう！		出願開始	入試 スタート	
	企業就職	何を大切に したいのか・ど んな業種・職 種で働きたい のかをしまっ かり考えよう！		進路室で過去の求人票 をチェック。求人票の見方 にも慣れておこう。	一般常識や作 文、面接の練習 を始めよう。		求人票公開 開始		採用試験 開始		面接がある場合 は、模擬面接の 練習を！
	公務員試験			学校で学んだ基礎をま っかり定着。作文練習も 必須！		受験受付 開始		1次試験	2次試験		

あの日から2ヶ月半 若い人を中心に、金銭について、あるいは「共生感覚」そのものについて、考え方が根本的に変わりつつあることを耳にすることが多くなってきました。共感を覚える人も多いのではないのでしょうか。ただ反面それゆえに、新しい羅針盤を見つけかねて生活の推進力を失いつつある人も多くなっている気がします。

「アウシュビッツの後で詩を書くのは野蛮である」 アドルノのこの言葉も震災後紹介されることが多くなったもののひとつです。今、自分のやっていることも、単なる「詩」にすぎないのではないかと。実は「蛮行」なのではないかと。あれ以降、はっきり別の行動を取れている人は、苦勞とともに意義も感じていられるのでしょうか。そこまで踏み切れない多数の人にとって、昨日まで「自分のために」していた、その同じ行動を、「他者のために」と思い直しながら続けることで罪障感から逃れることは至難の業です。たいていの場合、心よりも体（自然）が偉大ですから。

ただ、しかし、問い続けるだけでも……、それがリアルである限り、根気強く問い続けることに何かがあると信じる程度には楽天的でありたいものです。そうでもなけりや…



濱口哲史